

こぶしの花*

特集

大学で学ぶ地域防災

自然災害と共存するための知識を得て
有効な防災対策を考える

Pick Up! 翔麗祭2024.....	4
青森中央学院大学.....	6
青森中央短期大学.....	8
青森中央経理専門学校／青森中央文化専門学校.....	10
附属第一・第二・第三幼稚園／中央文化保育園／浦町保育園 ...	12
学園共通.....	14



新設した本部棟1階エントランスホールの風除室前にて
ステージを盛り上げた本学アンバサダーの王林さんと、majesticな「翔麗祭」を企画した実行委員会の皆さん

大学で学ぶ地域防災

自然災害と共存するための知識を得て、 有効な防災対策を考える

世界的に見ても自然災害が発生しやすい災害大国のひとつといわれる日本。政府は、2026年度中に災害時の司令塔機能を担う「防災庁」を創設する方針を表明しました。青森県でも11/5～11/24に「あもり防災ウィーク」として県全体で訓練等を実施し、防災の気運を高めています。本学の教職員に、災害や防災にまつわる専門的なお話を伺いました。

青森県の災害と防災に詳しい  青森中央学院大学 経営法学部 中村 智行 准教授



身近な災害について教えてください

三方を海に囲まれた青森県は、その位置・地形・地質・気象などの自然的条件から、これまでも多くの自然災害に見舞われてきました。近年においても、2021年8月には下北半島を襲った記録的な大雨により、むつ市の「小赤川橋」が崩落し風間浦村が一時孤立したほか、2022年8月には津軽を中心に記録的な大雨となり、鯉ヶ沢町では大規模な浸水被害が発生しました。

また、今年1月に発生した「能登半島地震」においても、緊急輸送道路が土砂災害などで多数被災し、救助・支援・復旧に大きな支障をきたしました。能登半島では、9月にも輪島市を中心に大雨災害が発生するなど、自然の猛威はいつも私たちの想定を覆してきます。2つの半島を抱える青森県でも、決して対岸の火事ではありません。

災害が及ぼす県内での影響

青森県では、今後も地球温暖化に伴う異常気象による大雨や、日本海溝沿いでの巨大地震・津波が想定されています。特に半島地域では、幹線交通体系から離れているなどの制約があることから、産業基盤や生活環境の整備など他の地域と比較して低位にあるため、災害発生時には、避難・救助をはじめ、物資供給等の応急活動が遅れることが懸念されています。

中村智行研究室での取り組み

本研究室では、青森県の市町村の災害リスクや避難行動の分析をするとともに、「地域探究アクト」等の授業により、被災地のフィールドワークや自然災害伝承碑の調査を通して、「災害から自分の命を守る行動」をとることができるような防災教育を行っています。



▲中村ゼミの授業において、青森県の「あもり防災ウィーク」の関連事業として、本学を会場に「防災講演会『いのちてんでんこ』～東日本大震災の被災体験～」(11/26)を開催しました。



▲下北の自然災害伝承碑や東日本大震災の津波遺構を訪ねて調査する中村智行ゼミ



避難所運営ゲームで学ぶ災害支援活動

2024年8月、看護学部3年生が「避難所運営ゲーム (HUG) 要配慮者バージョン (静岡県危機管理局開発)」を実施しました。将来、看護学生は組織内に限らず、地域においても支援者になる可能性があります。そのため、要配慮者 (妊産婦・乳幼児・高齢者等) への支援活動の経験 (図上訓練) が重要と考え、2020年度から実習の一環 (現在は「地域健康支援実習」) として実施しています。

学生は、机上に設定した様々な避難者カードやイベントカードに対して、グループで検討して対応します。開始時は読み上げたカードに右往左往しながら対応していましたが、次第にお互いに声を掛け合い相談しながら、作業を進めていく姿が見受けられました。

避難所運営ゲームで得た「学生の学び」※抜粋

- * 様々な事情に臨機応変に対応するには、様々な知識 (疾患・看護含む) が重要である。
- * 1人では難しいが、複数人だと新たなアイデアが思いつくため、災害時は特に協力が不可欠だ。
- * 目の前にある状況だけでなく、全体を見る観察力が必要だと思った。

本演習により、被災状況がイメージでき、必要な動きについての気づきが多いことから、今後もブラッシュアップしながら継続して行きたいと考えています。

「地域健康支援実習」の避難所運営ゲームにおいてグループ内で検討・協力しながら要配慮者への対応をすすめる学生たち▶



研究のテーマはライフステージと健康

私は食物栄養学科において応用栄養学や栄養指導論の科目を担当しています。ライフステージの栄養ケアや栄養教育に関する内容のため、自身の研究分野も幼児期を対象とした食育や高齢者の低栄養やフレイル予防、認知症予防といったライフステージと健康をテーマにしています。

青森県は様々な健康課題を抱えておりますが、これらを改善するためには子どもころからの食教育が大切です。そこで、現在、県内の栄養士・管理栄養士養成校の教員と「あもり子どもの健康研究会」を立ちあげ、親子や三代で学ぶ健康教室を企画・実施しています。



災害時の食事で大事なこと

自身のライフワークとして様々な地域活動をさせていただいておりますが、昨年度はじめて「災害と食」をテーマに講演する機会をいただきました。近年の大雨被害などにより、身近な方の生活があつという間に非日常になる現実を目の当たりにし、非常時にどのような食の対策をすべきか改めて考える機会となりました。

災害時は何よりも命を守ることが優先されます。そのため栄養優先ではなく、まず

は食べられるものや好きなものを食べて生きる力にすることが大事だと考えます。

もちろん非常時用の食事も重要ですが、使用されなかった場合、食べ物を無駄にすることになります。そこで、無理に備蓄を作るより、普段食べているものを多めに購入し、食べた分を買い足すローリングストックを取り入れることは、負担や無駄をなくしつつ「もしもの時」に備える方法として有効です。実践しやすいのでまずはそこからチャレンジしてみたいかがでしょうか。

◀ 昨年開催の公開講座「もしもの時のクッキング」で非常食や調理法を指導する森山准教授

本学の防災事情

本学の防災で重要なのは、自然災害等の有事の際に学生会館に住む皆さんや附属幼稚園の園児を、いかに安全に救護する体制を整えるかです。学園で



▲ 学内「防災デー」(9/1) での講習会

は、この課題を解決するために、防災体制の整備に励んでいます。まず、担当者が学園の実情に合わせ、学園全体を対象とした避難訓練のほか、学生会館



▲ 園児向け非常用トイレの使い方説明会

事務局 学生生活支援課 古山正英 課長

避難訓練や防災訓練を企画・実施し、防災意識の涵養を図っています。また、ハード面では、最大300名が冬期においても凍えることなく、最低3日間暮らすことができる非常発電設備や、アレルギーにも配慮した防災食等、QOLにも配慮した避難所の設営が可能な資器材を独自に整備しています。さらに、今年度は、3つの附属幼稚園において、有事の際に必要な園児向け防災食と、インフラがダウンした際に活躍する非常用トイレや電源の整備を完了しました。

「翔麗祭」



を開催しました

2024年9月21日・22日の2日間、青森田中学園祭の「翔麗祭」を開催しました。今年のテーマは「majestic～煌めけ青春の舞台～」。学生たちが青春の輝きを最大限に表現し、それぞれのステージで輝けるような学園祭に、という思いを込めて実施しました。

学生たちは、留学生の母国料理や地元食材を生かした飲食模擬店、本学サーク

ルのステージ、大学・短大・専門学校それぞれの得意分野を活かした参加・体験型の展示等を企画しました。また、本学アンバサダー・王林さんのステージ&トークショーはじめ、「宮村優子トークショー」、「GMU LIVE」、「ゴージャス」「大西ライオン」「トム・ブラウン」のお笑いライブで、大いに盛り上がった2日間でした。



青森中央学院大学 国際交流センター
第22回日本語スピーチコンテスト



9/21

日本語スピーチコンテスト

本学留学生による日本語スピーチコンテストを開催しました。ベトナム、タイから7名の留学生が出場し、日本人学生サポーターと練習を重ね、社会問題や家族のこと、日本での生活などについてスピーチしました。また、青森高校、青森明の星高校の生徒の皆さんが審査に加わり、本学学生とともに審査しました。最優秀賞には「AI時代に好奇心を持つこと」をスピーチしたグエン・ハイ・ユエンさん（院2年・ベトナム／サポーター・工藤瑠姫さん）が選ばれました。

9/22

王林さんアンバサダー就任式

本学卒業生でアンバサダーの王林さんが翔麗祭にゲスト出演しました。イベントステージが行われた体育館は、老若男女さまざまなお客様で満席となり、音楽と笑いに包まれる温かな空間となりました。

ミニLIVEとトークショーの間で行われた「アンバサダー就任式」では、佐藤学長から王林さんに認定証が授与されました。



また、イベント終了後、本部棟エントランスホールに整備された風除室を目にした王林さんは、一部にあしらわれた「津軽びいどろ」で作成されたガラス板に興味津々。青森の伝統工芸の発展に向けた活動をライフワークとする、王林さんらしい姿を垣間見る場面となりました。



9/21

短命県返上! 「健康料理教室」

「鎌田寛式長生き食事術」で短命県返上を目指しましょう!今回は「親子料理教室」を開催しました。



9/21

全国高等学校 ビブリオバトル青森県大会

本学図書館で開かれた大会には、県内高校8校から11名が参加し、書評合戦を繰り広げました。



9/22

青森中央文化専門学校 ファッションショー「fantasia」

それぞれの力作を身にまとい、悪天候の野外ステージでも負けない颯爽とした姿で観客にアピールしました。



「メディアリテラシー」向上をテーマに 企業PR動画を作成

キャリア支援センター長・経営法学部教授 竹内 紀人

今年度の経営法学部2年生の「キャリアプランニング」では、現代社会に必須の「メディアリテラシー」向上をテーマに掲げました。具体的には、地元テレビ局OBの方々を講師に迎え、前学期は座学で情報に対する感度を磨き、後学期はグループで地元企業のPR動画制作に取り組みました。

グループワークでは、スマホ撮影や編集のスキルアップもさることながら、

授業に参画いただいた地元企業の皆さまからの聞き取りや、どのようにその内容を表現するか議論を通じ、コミュニケーション力や情報の整理力向上に重点を置きました。

30名の学生が5グループに分かれ、通算8コマの授業で、連携協定先である協同組合青森総合卸センターを通じて協力いただいた5社のPR動画を制作しました。約1～2分の完成動画は、

最終回の試写会で企業の皆さまに披露されました。本プログラムにより、地域や地元企業、さらにはメディアの役割に対する学生の理解が、格段に深まったものと手ごたえを感じています。

学生が制作した
企業PR動画については
こちらから確認できます



▲企業担当者と打合せをする学生



▲企業に出向き社員をモデルに動画撮影



▲完成披露試写会

研究室紹介

経営法学部准教授 楠山 大暁

【研究・専門領域】 財政学・公共経済学・社会保障論



日本における福祉国家体制は、近代化された明治期以降現代に至るまで、様々な紆余曲折を経ながらも概ね拡大・深化してきたといえます。この福祉国家体制の拡大・深化は、増加す

る人口とそれに伴う経済成長に支えられてきたと考えられます。しかしながら、2008年に日本の人口がピークを迎え、本格的な人口減少局面に突入して以降、日本のGDP水準も世界第4位に転落するなどして、福祉国家体制の拡大・深化を支えてきた前提条件が崩れつつあります。

私の研究室では、以上のような問題意識のもと、近年の日本の地域福

祉をめぐる諸政策をとりあげ、それらが福祉国家体制の維持・深化をもたらしているのか、それとも社会経済規模の縮小と歩調をあわせるかのように縮小均衡へ向かっているのかを明らかにしようと試みています。時にはデータとにらめっこし、時には福祉の現場に出て話を聞いたり。興味のある方はぜひ、研究室に遊びに来てください。



▲学内シンポジウムで看護教員との共同研究について発表



▲楠山ゼミが特別養護老人ホーム三思園で「ディスカフェ」を体験



▲趣味は走ること。学生・教員チームで弘前城リレーマラソンに出場

「飛翔式」が行われました



「飛翔式」は、看護学部2年生が、基礎看護学を引き続き幅広く専門科目を学び始める2年次後期に、大学で看護学を学ぶことの意義を探究し学修の志を明確にするために開催されます。2024年10月19日、後輩や家族が見守る中、2年生(10期生)による「飛翔式」(今年のテーマ:桜梅桃李)が行われました。



「飛翔式」を終えて～学生から～

＊「報連相」がなぜ重要なのかを深く学ぶことができました。飛翔式の準備を行う中で実行委員同士の情報共有ができておらず、揉めることも何度かありました。その際に、なぜ先生方が普段、報連相の重要性を強調して仰っていたのかが分かりました。今回様々な立場から参加してみて、事細かく報告・連絡を行わないと他の人たちにも迷惑をかけ、最終的に自分たちを追い込むということが分かりました。

飛翔式を通して、たくさんの方のことを学んだだけでなく、学んだことを実行する、そして周りにも伝えるということができました。この約半年間、心が折れそうになったことが何度もありましたが、自分が成長できる良い機会となったので参加して本当に良かったです。(看護学部2年 清水月彩)

＊飛翔式のリーダーをやり、学んだことは、皆で協力することの大切さです。飛翔式は教員の方々やいろいろな方に支えてもらって成り立ちました。準備を進めて運営したのは私たち学生でした。しかし自分1人、誰か1人では決して成り立つものではありませんでした。10期生全員が自分の仕事に責任を持ち、協力しあったことが飛翔式の成功した理由だと思います。

飛翔式当日も皆真剣に取り組み、協力し合いながら素晴らしい式にすることができたと思います。私は今回の学びから、これから辛いことや苦しいことがあっても、みんなで協力して乗り越えていきたいと思いました。式の運営にご協力いただいた皆様、誠にありがとうございました。(看護学部2年 武田夏輝)



▲ 誓いのことばを述べる清水さん(左)と武田さん(右)

フリー参加型オープンキャンパス「みらいセレクト」初開催

入試広報副委員長・看護学部准教授 藤澤 珠織



2024年8月9日、午後からのオープンキャンパス開催前に、本学初となる事前申し込み不要のフリー参加型オープンキャンパス「みらいセレクト」が開催されました。これは、進路に迷う中高生とその保護者を対象に、「誰でも気軽に、気になる企画に参加し、みらいをセレクトするヒントを得てもらおう」という催しです。

当日の企画には、本学や短大の教員によるゼミ紹介をはじめ、取得可能な資格の紹介、進学に関わるお金の話や入試の説明がありました。また、学生生活を充実させるためのサークル活動や国際交流プログラムの紹介エリアを設けました。さらに、学生会館の見学やキャンパス探検、来場したキッチンカーで一息つく場も提供し、最終的には134名が来場しました。

参加した高校生の中には「元々興味は無かったけど、ゼミをみたら面白かった」という反応があり、「みらいセレクト」を通して自分の好奇心の方向性を見つけてくることができました。来年度は更にパワーアップして、中高生の皆さんの進路選びの参考となる企画を用意したいと考えています。



▲ 解剖生理学の紹介をする藤澤准教授



▲ FSAサークル留学生との交流

青森中央学院大学の履修証明プログラム「データ分析実践プログラム」受講生募集

大学で開講している履修証明プログラムは、学校教育法に定められた正式なプログラムで、社会人のスキルアップにもおすすめです。



数理・AI・データサイエンスに関する教育の中で、近年、コンピュータの利用スキルとともに「データを分析する能力」の必要性が高まっています。青森中央学院大学では、その能力の向上を目的とした履修証明プログラム「データ分析実践プログラム」を開講しています。本学プログラムで効果的に学び、キャリアアップを目指しませんか。

出願期間

- モデルコース①: 2/1～3/15
- モデルコース②: 7/1～8/31

受講期間

- モデルコース①: 4月～翌年1月の約10カ月
「1.5時間/週程度の学内学習」と「学外学習(ドコモgacco)」
- モデルコース②: 9月～翌年1月の約5カ月
「3時間/週程度の学内学習」と「学外学習(ドコモgacco)」

※モデルコース②はオンデマンド受講が可能です。

プログラム内容

- ・ 授業科目: 統計学(30時間)
- ・ 学内課外講座: データ分析実践講座(22.5時間)
- ・ 学外講座: ドコモgacco内指定講座(12時間)

- 受講資格: 一般的なコンピュータスキル
- 定員: 10名程度/年
- 受講料: 40,000円

問い合わせ先

青森中央学院大学 基幹教育センター
電話: 017-728-0131 (代表)

Email: data_bunseki@aomoricgu.ac.jp





■ 東北町と連携協定を締結しました

2024年9月17日、地域の課題に適切に対応し、活力ある個性豊かな地域社会の形成と発展に寄与することを目的に、東北町と青森中央短期大学は連携協定を締結しました。

東北町とは2017年に青森中央学院大学が包括的な連携協定を締結し、東北町まちづくり委員会への委員派遣やわかさぎマラソン、おがわら湖美味

満彩祭り、認知症サポーター講座等のイベントへの参加など、さまざまな協力事業に取り組んでいます。短大もまた、絵本の読み聞かせやケーブルテレビの健康教育事業、食に関わるイベント運営

への協力等を実施し、今回の協定締結に至りました。

この協定締結を契機に一層関係を強化し、連携して地域課題の解決に向けて事業を実施してまいります。



▲東北町の長久保町長(左)と山田学長(右)



▲牛乳消費拡大運動のイベントに学生がスタッフとして参加しました



▲学生が読み聞かせを行った「絵本と音楽のおはなしコンサート」

■ 「ビオトープの唄」を制作しました

2024年5月、キャンパス内にあるビオトープのテーマソングを制作しました。

歌詞の中には、ビオトープで出会うメダカやセミや雨蛙、シロツメクサ、たんぽぽ、どんぐりたちが登場します。園児や学生たちは、ビオトープの活動の前後

にいつもこの唄を歌ってくれます。

生き物たちのささやきに耳を澄まし、自然と対話しながらゆったりとした優しい時を過ごせるように…、そのような思いを唄に込めました。

幼児保育学科 学科長・教授 前田 美樹

『ビオトープの唄』

- あめんぼ めだか ないしょばなし
耳をすませば 聴こえるよ
ケロケロ ピョンとあまがえる
葉っぱの色に 変身だ
ジーリ ジーリ あぶらぜみ
夏になったら うたおうね
ビオトープの森から
ピカピカ いのちが はじけるよ
- しろつめ草の かんむりは
だいすきな 君にあげる
たんぽぽ わたげ フワフワリン
水辺に咲いた みつがしわ
ココロ どんぐりは
森のみんなの たからもの
ビオトープの森から
にこにこ 笑顔が 咲いている



▲附属第一幼稚園で「ビオトープの唄」を指導する前田教授



▲自然遊びが園児に人気、キャンパス内のビオトープ

研究室紹介



私の研究分野は、絵画表現の研究と、美術教育・造形教育の研究です。

美術・造形による表現行為は「自分は何が好きなのか、何を心地よいと感じるのか?」を見つめなおすだけではなく、人に見せることによって「自分と他人の考え、感性の違い」を明らかにしてくれます。それは他者を受容する精神の土台作りにも繋がるものです。美術・造形という正解や不正解の無い中だからこそ、自分の考えを主張し他者の感性を受け入れることがスムーズにできるよね、と思うのです。

また、今年度から『造形教室めてお』というものを立ち上げました。この取り組みは「目と手でたくさん楽しんで、『おっ』と驚くような体験をしよう」というテーマのもと、5歳から12

幼児保育学科 講師 木戸 永二



歳までのお子さんを対象にしています。

造形という分野の本質は「遊びながらモノと関わることで、思いがけない発見が起こり、時にそれが計算や理性を超えた作品へと変化する」という点にあるのではと考えています。この楽しみが幼児のものだけに限定されるのは、非常に勿体ないことだと思っています。



▲ものづくりを通して児童に保育士の仕事を伝える「おしごとゼミ」



▲ビオトープサークル顧問として自然遊びを教える木戸講師



『中短のちゅっぴいおすすめ！ 青森の味お楽しみ弁当』を開発

食物栄養学科 助教 白取 敏江



食物栄養学科では、産学官連携の取り組みとして、産（株式会社イトーヨーカドー）学（青森中央短期大学）官（青森県総合販売戦略課）で連携を行い、地元企業である有限会社丸高橋蒲鉾店の協力を得て、2012年より12年間にわたり地産地消弁当の開発・販売に取り組んできました。

13回目となる今年度は、産（イオン東北株式会社）学（青森中央短期大学）官（青森県農林水産部 食ブランド・流

通推進課地産地消グループ）で連携を行い、学生が食べてもらいたい・伝えたいと思う昔ながらの郷土料理と、県産の食材を使って様々なアレンジした料理を組み合わせ、青森ならではの味が楽しめるお弁当『中短のちゅっぴいおすすめ！青森の味お楽しみ弁当』を開発しました。

お弁当のお披露目をした知事表敬では、宮下宗一郎知事が開発に携わった学生一人一人に各料理の特徴や工夫

点、料理に込めた思いなどを質問しながら一品ずつ試食して下さいました。新聞やテレビの取材対応では、魅力をアピールし、お弁当の販売期間内に行われたPR販売イベントでは実際に店頭立ち、お買い物中のお客様に積極的に声がけをして販売のお手伝いをし、お昼過ぎには売り切れる店舗もありました。



▲宮下知事表敬訪問



▲イオン東北店舗にてPR販売イベント

学生が考案 「ごろっとお肉 八甲田牛カレー」

食物栄養学科 准教授 森山 洋美



食物栄養学科の学生が考案した、青森市の特産品「八甲田牛」を使ったオリジナルレシピのカレーが発売されました。「八甲田牛」は日本短角種という和牛の一つで、八甲田山麓で放牧され、青森の大自然の恩恵を受けながらのびのびと健康に育てられます。年間出荷頭数が約50頭という希少性の高いブランド牛で、旨味豊かでヘルシーな赤身肉が特徴です。

今年2月に八甲田牛生産者協会が八甲田牛のブランド価値向上を目的として、大学、地域企業、行政と連携して開発した新商品の完成報告・試食会を開催し、この度、本学学生が開発したレシピが商品化されました。

学生が開発した商品「ごろっとお肉 八甲田牛カレー」は、本学と株式会社

いしおか、青森市との産学官連携商品です。八甲田牛の需要が低い部位の活用を目指し、モモやバラの切り落とし部位を使用しています。塊肉がごろっと入り、他にも八甲田牛のひき肉や青森県産りんご、にんにく入りで、スパイシーに仕上がっています。



▲商品化された八甲田牛カレー

袋のままレンジで温められる商品です。青森市にあるショッピングセンター「サンロード青森」1階の飲食店「スープカレー匙と香」店頭で販売されているほか、青森市のふるさと納税でも入手可能となっています。



▲八甲田牛商品の完成報告・試食会

青森中央文化専門学校

「Reclothes Cup」一次審査通過・実物作品制作



ブックオフコーポレーション株式会社主催のアップサイクルデザインコンテスト「Reclothes Cup」にて、服飾学科に通う全国の学生のエントリー作品約500点の中から40点が一次審査通過。その中に、本校トータルファッション科 アパレル専攻1年・久保田 梨純さんの作品が選出されました。本校からは昨年に続き二人目の一次審査通過作品となります。「Reclothes Cup」では古着を使用し、自身の考えるアップサイクルをトータルコーディネートで表現します。デザイン性に加え、素材を選んだ理由、使い方、どこま

で無駄なく使い切れたかなど、様々な視点で審査されます。夏季休暇中に作成した実物作品は、2024年12月1日に福岡県で開催される最終審査会でお披露目されます。久保田さんの活躍に是非ご期待ください。



青森中央文化専門学校

産学連携プロジェクトで衣装制作

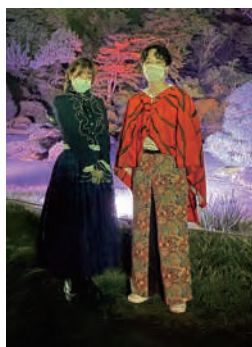


この度、青森中央文化専門学校トータルファッション科アパレル専攻では、一般社団法人平川市観光協会より依頼を受け、国指定名勝「盛美園」をイメージソースにした大正ロマン風の衣装をデザインおよび制作しました。2024年9月22日～23日に行われた

ライトアップイベントにてお披露目となり、ご来場くださいましたお客様へ試着体験をしていただきました。

2日間合計で325名ものお客様にご来場いただいた本イベントには、制作した学生も参加し、「クオリティの高い衣装を着ることができた」「衣装を着ら

れたのがとても良かった」等、実際に着用されたお客様から嬉しいお言葉をいただきました。衣装は、今後も同観光協会の様々なイベントにて活用される予定ですので、平川市へお立ち寄りの際には是非ご体験ください。





青森中央経理専門学校

■ 学生が講師役の「パソコン講座」を開催



2024年8月24日、青森県総合社会教育センターにて「パソコン講座」を開催しました。本講座は学生たちが講師役となり、参加者と1対1を基本にパソコンの操作等をレクチャーする形式で行い、今年で13年目となりました。

今回は基礎講座と題して、ワードとエクセルの基本操作をそれぞれ実施しました。学生たちは分かりやすく説明

することを心掛け、時には一緒に操作をしながら対応していました。また、参加者とコミュニケーションをとりながら対応していた場面もあり、学生たちにとってはいい経験になったと思います。参加者からも「分かりやすかつ

た」「このような機会をまた作って欲しい」などのコメントもありました。参加された皆様、ありがとうございました。



青森中央経理専門学校

■ 学園祭に出店・展示しました

2024年9月21日・22日に開催した青森田中学園の「翔麗祭」にて、今年も青森中央経理専門学校の学生が模擬店「れいわっふる」を出店しました。

展示ブースでは、コース毎にパネルを展示しました。展示内容は、経理事務

コース「わたしはどんなモノにお金を使っている?」、医療事務コース「日常に役立つ薬の豆知識」、観光コンシェルジュコース「訪れてみたいアニメの聖地巡礼人気スポット」です。学生全員が展示作品の作成、パネルの装飾準備を

おこないました。

また、学術交流会館3階のパソコン実習室では、パソコンで作成するオリジナルカレンダーづくりを開催し、幅広い年齢の方々にご参加いただきました。



青森中央文化専門学校

翔麗祭ファッションショー・ Bunka Fashion Live 2025 開催のお知らせ



青森中央文化専門学校では、2024年9月22日に行われた翔麗祭のメインステージにてファッションショーを開催しました。「fantasia」と題し、全19作品を発表しました。

2025年2月24日(月・祝)には、アウガ5F AV多機能ホールにて「Bunka Fashion Live 2025 -Fantasia-」の開催を予定しています。未発表の衣装も含めてフルバージョンでお見せしま

すので、ぜひご期待ください。

詳細は青森中央文化専門学校公式Instagramにて随時更新しますので、フォローをお願いします。

皆様のご来場をお待ちしております。

Bunka Fashion Live 2025
-Fantasia-
2025年2月24日(月・祝)
アウガ5F AV多機能ホール
第1部/11:30~、第2部/13:30~



附属第一・第二・第三幼稚園／中央文化・浦町保育園

教育方針 健康で明るく心豊かな子ども ●友達と仲良く遊ぶ ●思ったことははっきり話す ●よく見、よく聞き、よく考える ●自分のことは自分でやる

附属第一幼稚園



だいいちおりんびく2024!! 年長児が制作し、ルールを決め、異年齢で楽しみました! 「よい…スタート!!」



合宿保育の夜★ みんなでりんごのダンスを踊ったよ!



かんてん遊び♪ 「冷たい!プルプルして気持ちいいね!」

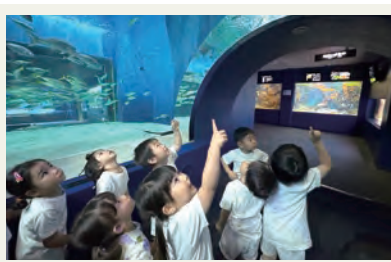
附属第二幼稚園



合宿保育で流しそうめんに挑戦☆ 流れてくるそうめんをワクワクしながらすくったよ!



おうちの方と一緒に幼稚園祭り♪楽しいゲームやおいしい棒パン、フルーツを食べたよ!



お友だちと一緒に楽しさいっぱい♡ 泳いでくる魚に目がキラキラな子ども達でした(^ ^)

附属第三幼稚園



(上)つばめ組 保育参観・いらっしゃいませ～ (下)はくちょう組 遠足・さあ～出発だー



(上)うぐいす組 春雨遊び楽しいな (下)かなりや組 ♪しゃぼん玉とんだァ～♪

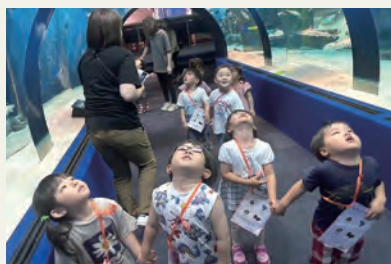


こぼと組 こぼとファームの収穫で～す

中央文化保育園



【合宿保育】 みんなで作ったカレーライスはおいしかったね



【水族館見学】 海中トンネルで泳ぐ魚に大興奮



【保育参観】 おうちの方に見守られドキドキわくわく★

浦町保育園



合宿保育🍎アップルヒルでたくさん遊んで、おいしいお弁当を食べました(´～`)



🍉すいか割り🍉ラインメールのみなさんと、すいか割りしました!大きくてあま～いすいかでした😊



🍡あきまつり🍡 US気分、たくさん楽しみました🍡

先生達活躍しています

子どもたちの明日へ繋げる栄養士に

「食べることは命をいただくこと」とよく聞きますが、幼稚園で栄養士を務めているとその言葉は本当の事なのだ、強く実感します。私たちは食べ物から栄養を摂り、体を動かすこと・考えることができるようになります。しかし、食べ物を食べない・必要な栄養を摂らずにいると、その十分な力を発揮することができないのです。食べ物はスーパーなどで簡単に手に入りますが、そのスーパーまで食べ物を運んでくれた人・作物を作ってくれた農家の人・家畜を育

認定こども園青森中央短期大学附属第一幼稚園
栄養教諭 千島あかり先生



ててくれた人・漁をして魚を取ってくれた人など、沢山の人の関わりがあって、手に入れることができるのです。子どもたちに食べ物にはその食べ物の命だけではなく、それに関わった沢山の人の命から出来ていることを給食を通して、教えたいと思っています。

子どもたちの明日へ繋げる栄養士という職に日々、やりがいを感じています。

子どもの成長と一緒に

私は青森中央短期大学附属第二幼稚園に勤務して2年目になりました。

今年度は2歳児を担当しています。はじめは「やって!できない!」「いやだ!」と先生たちに甘えていた子どもたちでしたが、日が経つにつれて「自分でやる!」「先生見て!〇〇できるようになったよ!」と一人で挑戦してみようしたり、できるようになったことがまた1つ増えたりと、子どもの成長とともに、

認定こども園青森中央短期大学附属第二幼稚園
宮川 萌々子先生



やりがいも感じています。また、園での出来事を保護者に話すと「え〜!すごいね! えらいね!」など、できるようになったことを共有し、コミュニケーションを通して信頼関係を築くことにも努めています。これからも子どもたち一人ひとりに寄り添った保育を心掛けて、子どもたちのパワーに負けないように一緒に成長していきたいと思っています。

元気な子どもたちと共に頑張る毎日

私は、青森中央短期大学卒業後、浦町保育園に勤務し、2年目になります。まだまだかけ出しの保育教諭なので、日々、先輩の先生方からアドバイスをいただきながら、奮闘している毎日です。今年、0歳児の担任となり、子どもたちが毎日楽しく、安全に安心して過ごせる環境を与えられる保育をすることを心掛けています。0歳児は、子どもの発達を間近で見られることが多く、初めて立ったり、歩いたりする姿は保育教諭ならではの感動だと思います。また、一緒に絵本

幼保連携型認定こども園浦町保育園
鈴木 あおい先生



を見たり手遊びをしたりしていると、かわいい笑顔や楽しい笑い声があり、自然と元気をもらいます。保育教諭1年目は、子どもたちとふれあうだけでいっぱいいっぱいな毎日でしたが、今年、子どもたちと一緒にいて保育教諭になってよかったと思えるようになり、とてもやりがいを感じています。これからも子どもたちの成長を見守りながら、笑って過ごせる保育ができるよう精一杯がんばります!

読み聞かせたい一冊の絵本

認定こども園青森中央短期大学附属第三幼稚園 中村 あゆ先生

ぜったいに おしちゃダメ?

ビル・コッター作 (サンクチュアリ出版)

この絵本は、私が保育実習をしていた時に会った先生が、子どもたちに読んでいた本です。ついつい押したくなっちゃうボタンと謎の生き物がでてきて、「おしたらどうなるんだろう?」「おしちゃうか?」と誘惑してきます。ボタンを子どもたちに実際に押させたり、絵本を振ったり、こすったり…と参加しながら子どものドキドキ感や好奇心が刺激され、みていて展開が面白く思わず笑顔になってしまう、とても楽しい絵本です。

この本以外にも「ぜったいにあけちゃダメ?」や「ぜったいにかいちゃダメ?」などシリーズ化されているので、子どもだけでなく大人も興味津々になっちゃうこと間違いなしです。

今でも印象深い1冊なので、何度でも子どもたちと笑い合いながらぜひ読んでみてください!



青森田中学園 おまつり特集

2024年8月2日から7日まで青森市で開催された「青森ねぶた祭」に、本学園から「青森中央短期大学附属幼稚園子どもねぶた」が8月2日・3日の2日間出陣し、短大と専門学校の学生が囃子方として参加しました。また、4日・5日には青森中央学院大学の学生がハネトとして「消防第二分団ねぶた会・アサヒビール」の運行に参加しました。園児のハネトをはじめ、本学園の学生・教職員による運行・囃子方で力いっぱい盛り上げ、観衆に元気と笑顔をお届けしました。

青森ねぶた



青森ねぶた祭

51年目の出陣ねぶた「地震鯨」
(ねぶた師・内山龍星さん作)



ミスねぶたグランプリで
青森中央学院大学学生の
工藤さんと
本学園の石田理事長

ミスねぶた





黒石よされ 横内秋ねぶた



2024年8月15日、日本三大流し踊りのひとつといわれる「黒石よされ流し踊り」に、青森中央学院大学が団体として参加しました。昨年までは黒石青年会議所の一団に、自由参加枠で加わっていましたが、今年は参加18団体のひとつとして、本学留学生はじめ日本人学生チューター、サマープログラムで本学に滞在中の北京第二外国語大学(中国)、国立台中科技大学(台湾)の学生あわせて20名が参加しました。チーム一丸となって踊りを楽しむ学生たちは、観客を魅了する笑顔が溢れていました。



黒石よされ 流し踊り



横内 秋ねぶた



青森市横内地区10町会と、横内地区を拠点とする青森中央学院大学・青森中央短期大学他で構成されている「横内地区まちづくり協議会」が中心となり、2024年9月22日、「横内秋ねぶた」を開催しました。昨年引き続き、今年もねぶたの修復はじめ、当日のロープ持ちやねぶた曳き、お囃子等、地域の方々と共に本学の学生も様々な役割を担当しました。

また、今年は隊列の規模を拡大し、今別町の「荒馬」が先陣を切って、青森中央高校の「けっばるべア」ねぶたと幸畑ねぶた、青森公立大ねぶた、市役所ねぶた、横内地区の「桃太郎ねぶた」と5台ものねぶたが出陣し、横内地区を賑やかに練り歩きました。

発行日:2024.11.29

発行:学校法人 青森田中学園

〒030-0132 青森市横内字神田12-1

TEL:017-728-0121

FAX:017-738-8333

<https://www.aomoricgu.ac.jp>

<https://www.chutan.ac.jp>



「こぶしの花」
バックナンバー



「こぶしの花」編集委員

編集長 加藤 澄

田中 雄大 福田 雅美

外崎 秀香 齋藤 雅美

大水 咲良 赤坂 裕子

中田 尋美 岩葉 悦子

蝦名久美子 町田美智子



本部棟1階エントランスホールに新しく「風除室」が設けられました。正門からキャンパス全体を貫く一本の軸線に沿って、青森の伝統工芸「津軽びいどろ」の板ガラスが配置されています。この津軽びいどろは、ガラス職人の巧みな技術により、学園ブランドカラー6色と白いこぶしの花をイメージした配色で制作されました。青森の伝統工芸が大好きな王林さんも触れたりのぞき込んだりと、興味深い様子でした。

学園報「こぶしの花」に投稿しませんか

「こぶしの花」編集委員会では、青森田中学園報「こぶしの花」に掲載する写真や情報を募集しています。学園に関する魅力的な作品やできごと等、在学生の皆さんからの投稿をお待ちしています。

■応募期間:通年

■応募方法:申込フォームまたはメール
メールの場合は

①件名「こぶしの花写真・情報投稿」

②本文「所属・学年・氏名・電話番号・写真タイトル」を記入し
写真データを添付してください。

なお、応募作品は、青森田中学園在学生が撮影した未発表のものに限ります。
掲載が決まりましたら、こちらから連絡いたします。

■申込フォーム:<https://forms.office.com/r/SzQzdfPpKA>

■メールアドレス:acgukoho@aomoricgu.ac.jp

こちらの
申込フォームを
ご利用下さい

